

正しく恐れる 新型コロナウイルス感染症

結核予防会新山手病院 感染対策室

2020年6月作成



はじめに

新しい感染症であり、すべてのことが完全に分かっているわけではありません。2020年6月時点で報告されていることを元に作成しておりますが、現時点で不明な点はハッキリと不明であると明記いたします。不安に思われることもあるかと思いますが、当院では分かっていない点に関しても十分にカバー出来るように対策を練っておりますのでご安心下さい。

内容

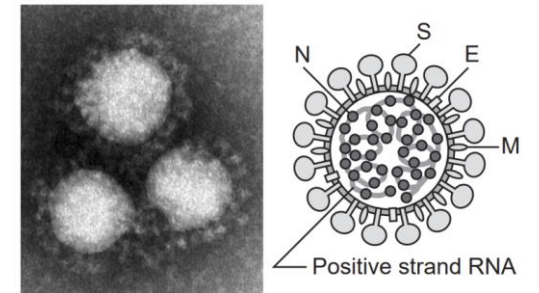
- 新型コロナウイルス感染症とは？
- どのような症状が起こるのか？
- 治療について
- 感染経路について
- 予防のために注意すべきこと
- 当院における感染対策・診療の状況



新型コロナウイルス感染症とは？

- 2019年12月に新しく発見された「コロナウイルス」というウイルスによる感染症です。
- コロナウイルスは元々いわゆる「風邪」や「SARS(重症急性呼吸器症候群)」のウイルスです。
- ヒトに感染を起こすコロナウイルスは6種類が知られていましたが、今回7種類目が発見されました。

- 大きさは0.0001mmと目に見えないほど小さいウイルスです。



- 顕微鏡で拡大してみると形が王冠のようであり、Corona(ギリシャ語で王冠)と呼ばれています。

どのような症状が起こるのか？

- 初期症状や軽症例では「風邪」と区別がつかないくらい類似した症状です。
 - 発熱(50-95%)、痰の少ない咳(70-80%)、倦怠感(70%)、呼吸困難(60%)
 - その他、筋肉痛・下痢・悪心/嘔吐も報告されているがそれぞれ20%程度です。
 - 味覚・嗅覚の異常も報告されています(コーヒー等のおい・味を感じなくなる)
 - くしゃみ・鼻水などの鼻症状や、喉の痛みなどは少ないと考えられています。
- 比較的軽症の感染者の方にお話を伺うと「インフルエンザの一番つらいときに似ている」とのことでした。

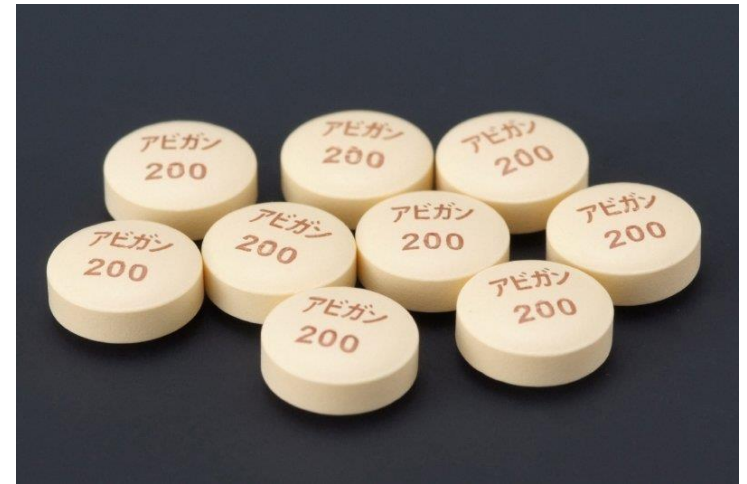
どのような症状が起こるのか？

- 軽症では前述の症状が発症後1週間ぐらい続き、少しずつ快方へ向かっていきます。
- 中等症・重症では発症後1週間から症状が悪くなっていくことが多いと考えられています。
- 集中治療が必要となる方の多くは、発症後10日目ぐらいに集中治療室へ入室されています。

- 感染が確認された方のうち、約80%が軽症、約15%が中等症で酸素投与等が必要になり、約5%で集中治療が必要となると報告されています。
- その他にも「無症状感染者が非常に多くいるのでは？」と考えられていますが、その数に関してはハッキリと分かりません。

治療について

- 現在のところ、ウイルスを倒す**特定の治療薬はありません**。
- アビガンやレムデシビルという薬の効果が期待されていますが、効果はハッキリと証明されていません。
- 基本的には対症療法・支持療法を行っていくことになります。
 - 酸素が足りなければ酸素投与や人工呼吸器
 - 発熱がつけられれば解熱鎮痛薬 など
- アビガン・レムデシビルを含む、様々な薬の治験が2020年6月現在も行われています。



感染経路について

- 大きく3つの感染経路が考えられています。
 - 接触感染
 - 飛沫感染
 - エアロゾル感染≒空気感染
- 順にご説明します。

注) エアロゾル感染は空気感染と飛沫感染の中間的な概念とされています。空気感染は「ウイルスがかなり長い時間空気中に漂うもの」であり、エアロゾル感染は「ウイルスがしばらく空気中に漂うもの」と言われ、明確な区別はありません。



感染経路について ー接触感染

接触感染とは、**皮膚や粘膜の直接的な接触**や、**手、ドアノブ、手すり、便座、スイッチ、ボタン**等を介しての**接触**で病原体が付着することによる感染のことです。

例えば新型コロナウイルスに感染したAさんが手にウイルスをつけたまま触ったドアノブをBさんが握り、Bさんがその手を綺麗にせず目や口に触れると感染が成立する可能性があります。



感染経路について - 飛沫感染

飛沫感染とは、咳やくしゃみなどの際に飛び出した飛沫(ひまつ：しぶきのこと)を直接吸い込んだり目や口などの粘膜に浴びることで成立する感染のことです。

通常の会話でも5分間程度で約3000個の飛沫が飛ぶとされていますが、この飛沫は最大で2mほどしか飛ばないため、ソーシャルディスタンスが重要であると言われています。



感染経路について –エアロゾル感染

飛沫のうち、とても小さなものは軽いのですぐに落下せず、空中を漂います。これをエアロゾルと呼び、エアロゾルを空気と一緒に吸い込んでしまい感染が成立することをエアロゾル感染と言います。咳やくしゃみ、その他特定の医療処置の一部で生じやすいとされています。

新型コロナウイルスの場合は空気中に約3時間漂うと報告されています。



予防のために注意すべきこと



外出控え

密集回避

密接回避



密閉回避

換気

咳エチケット

手洗い

大部分が接触感染・飛沫感染であると考えられています。

エアロゾル感染もあると考えられていますがまだその重要性はハッキリ分かっておらず、

最重要は接触感染・飛沫感染対策となります。

予防のために注意すべきこと

● 接触感染予防策

- 不用意に目や口を触らず、頻回な手洗い・手の消毒を行う
 - ✓ 特に不特定多数の人が触れるもの(ドアノブ・吊り革など)に触った後は注意が必要
- 頻回に手が触れる場所(ドアノブ・エレベーターボタンなど)をアルコール等で消毒する
 - ✓ アルコール(濃度は60-80v/v%である必要があります)の他、次亜塩素酸ナトリウム(キッチンハイターなどの漂白剤：人体への使用は不可)、食器用洗剤なども有効とされています。
 - ✓ 次亜塩素酸水という水を電気分解して得られるものも近年注目されていますが、その効果は証明されていません。次亜塩素酸ナトリウムとは異なりますのでご注意ください。

予防のために注意すべきこと

● 飛沫感染予防策

- 自分から周りの人に広げないように…
 - ✓ マスクの着用など、咳エチケットの徹底
 - ✓ ソーシャル・ディスタンス
 - ✓ 体調が悪ければ外出しない
- 周りの人から自分にもらわないように…
 - ✓ ソーシャル・ディスタンス、三密の回避



正しいマスクの着用



予防のために注意すべきこと

- エアロゾル感染予防策

- 換気の徹底

- ✓ エアロゾルは**空気中を3時間ほど漂うが、換気によって速やかに消失する**と報告されています。
- ✓ 密閉された空間でも**1時間に2回程度**、室内の空気が入れ替わるといいでしょう。

- 医療従事者は必要に応じてN95マスクという特殊なマスクを着用します。



当院における感染対策・診療の状況

- 当院ではここまでに解説した対策を徹底して行っております。
 - ✓ 職員は手指消毒用アルコールを携行し、適切なタイミングで消毒を実施しています。
 - ✓ 全職員にマスクの着用を義務づけております。
 - ✓ 皆様の手が頻回に触れる場所は定期的に消毒を行っております。
 - ✓ 診察室・待合・病室・スタッフルームなどの換気を徹底して行っております。
- 発熱などの症状がないか、病院入り口で全ての方にお伺いしています。
 - ✓ 新型コロナウイルス感染症が疑われる場合、院外での診療にご理解・ご協力いただいております。
- 全職員が毎日検温などの体調チェックを行い、体調不良の際はかならず休むよう指示しています。

この他にも様々な対策を行っております。詳しくは当院ホームページをご覧ください。

当院における感染対策・診療の状況

- 2020年6月現在、厚労省より公表されている基準に基づいて疑いがある方は早期に別のスペースへご案内し、保健所などの行政と連絡を綿密に取り合いながら診療を行っております。基本的には保健所の指示のもと、PCR検査等施行しております。
 - ✓ 院外にコンテナハウスを設け、こちらを疑いがある方の診療スペースとして使用しております。
- 2020年6月現在、新型コロナウイルス感染症の方は入院されておられません。
 - ✓ これまで病院スタッフや他の患者様への院内感染は一切生じておりません。
 - ✓ スタッフにも感染者は出ておりませんし、これからも対策を徹底して参ります。

当院では皆様に安心・安全な医療を提供出来るよう、
これまで以上に徹底した対策を行っております。

どうぞ安心してご来院下さい。

